

県都デザイン戦略（案）

平成25年 月

福井県・福井市

目 次

はじめに

1. 趣旨	1
2. 県都の目指す姿	2
3. 県都まちづくりの方向性と実現方策	4
I. 歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都	
(1) 歴史を象徴し、人が集まる中心となる「福井城址公園」の整備	6
(2) 地域の歴史を実感できるまち並みの形成	9
(3) 文化を育て、発信する県都の実現	14
II. 美しく持続可能な都市	
(1) 緑豊かな風格ある都市への再編	16
(2) 人や環境に優しい交通とコンパクトな都市構造の実現	23
III. 自然を守り、緑や水と共生するまち	
(1) シンボルとしての足羽山、足羽川と緑がつながる空間の形成	28
(2) 文化と活動の空間としての足羽山、足羽川の再生	30
4. 推進方策	32
策定経緯	36

1. 趣旨

(1) 目的

県都福井は、戦災、震災から60年余りが経過し、都市全体がリニューアルする時期にある。県庁舎、市庁舎を含め、今後順次、建物や都市インフラの更新時期を迎えることが想定される。

また、2018年の福井国体に向けては多くのスポーツ関係者の来県が想定される。さらに、北陸新幹線の県内延伸や高規格道路の整備など、福井県を取り巻く高速交通体系がこれから大きく進展する。地域間競争が厳しさを増す中、県都が経済、観光、文化的な面で県内各地をリードする重要性が高まっている。

一方、中心部において先行する人口減少と超高齢化が、今後、県都全域において一段と進むことが確実である。公共施設や住宅の郊外化等による都市の拡大を見直すなど、新たな見地に立って、こうした課題に対応するまちづくりを行う必要がある。

このため、福井市都市計画マスタープランにおける「まちなか地区」を中心として、長期的な視点を持って都市の再設計を構想し、次の時代に受け継ぐ県都の将来像と実現のための方策を提示する。

(2) 位置付け

北陸新幹線県内延伸、県・市庁舎の移転・再配置を含む都市の再編、人口構造の大きな変化など、中長期の新たな状況を想定した県都のまちづくりについて、その指針となる考え方を提示する。

企業立地、観光等の経済活動や芸術・文化、まちづくり等の社会活動の受け皿となり、発展を続けるため、県都の目指す姿や実現に向けた具体的な方策を示す。

また、目前に迫った福井国体までを目標に、先導的に具体化するプロジェクトを明確にする。県民・市民、企業や団体の協力のもと、今後、中長期にわたり積み重ねるまちづくりの第一歩とする。長期的なプロジェクトについては、経済社会状況の変化に対応して、将来の世代が具体化の議論を深め、実現を目指す。

(3) 目標年次

目標年次	2050年	短期目標年次	2018年	福井国体開催
		中期目標年次	2025年	北陸新幹線敦賀開業

2. 県都の目指す姿

I. 歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都

県都には、福井城址、養浩館庭園や愛宕坂等の拠点、幕末志士のゆかりの地など、都市の成り立ちを象徴し、歴史の深さを表わす資源が存在する。北国街道沿い等のそれぞれの地域には、歴史を映す建物や商いの形が残る。

積み重ねてきた歴史の重層性を実感できるまちは、住む人には誇りを、訪れる人には感動を与える。そのため、城下町の歴史や近代化による発展、戦災・震災からの復興の記憶など、積み上げてきた地域の歴史を掘り起こし、目に見えるかたちで次代へ継承する。

また、若者など多様な世代を惹きつけるまちの魅力を高めるためには、歴史と伝統のもとに、常に新たな文化を創造・発信する文化力の向上が必要である。そのため、福井県内の確かなものづくりや工芸デザイン、食文化を体感でき、まちなかのアート等、豊かな感性に身近に触れ合うことができる創造的な都市を実現する。

II. 美しく持続可能な都市

戦災・震災復興で築いた豊かな都市基盤のもと、かつての城郭の範囲に駅や行政、商業機能が集積する都市構造は、これからも維持していくべき他都市にはない県都の特徴である。

人口減少、超高齢社会の本格化を迎え、都市経営のコストを縮減する集約型の都市を形成する重要性が高まっている。誰もが暮らしやすく、移動しやすい、コンパクトな県都づくりをより一層推進することが必要である。また、住みたい、訪れたい、働きたいと思える県都を実現するため、現状のまち並みを改善し、緑豊かで美しい都市空間を形成する必要がある。

そのため、建物や都市インフラの更新時期を捉え、既存ストックを有効に活用しながら都市機能等の集約化を図り、コンパクトで持続可能な都市構造を実現する。県都の顔としての風格を備えた、緑豊かな美しいまち並みを形成する。また、郊外から人を呼び込む交通体系とまちなかを周遊する交通体系を再構築する。

Ⅲ. 自然を守り、緑や水と共生するまち

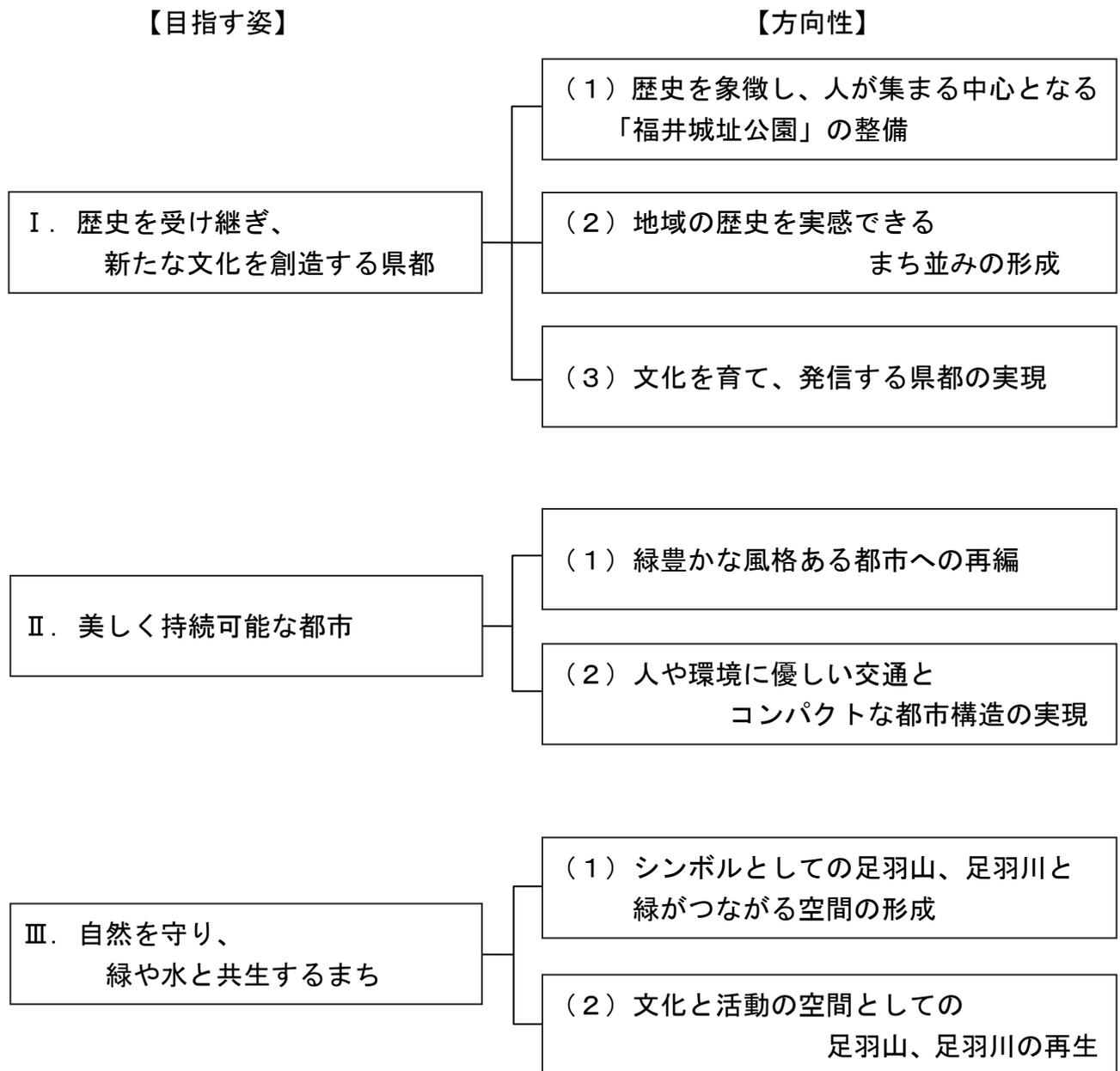
足羽山、足羽川が、駅や行政、商業機能とともにまちなかに位置し、都市の骨格を形成することは、県都の大きな特徴である。

足羽川は、かつて城郭の一部として軍事的防御の機能を担った。舟運を担う産業の軸として機能した。山里から海へと自然をつなげ、足羽山とともに多様な生態系を形成してきた。また、足羽山の麓や足羽川周辺は、福井藩士等のゆかりの旧跡や、神社参道、料亭街等として発展した文化を残す。

足羽山、足羽川は、まちのシンボルとして、将来にわたり自然を守り、歴史と文化を楽しむ場として活かす。また、足羽山、足羽川に象徴される緑をまちなかへと広げ、緑や水と共生するまちを形成する。

3. 県都まちづくりの方向性と実現化方策

県都の目指す姿に対応して、7つの方向性を定める。



◇県都デザイン戦略の全体像



I. 歴史を受け継ぎ、新たな文化を創造する県都

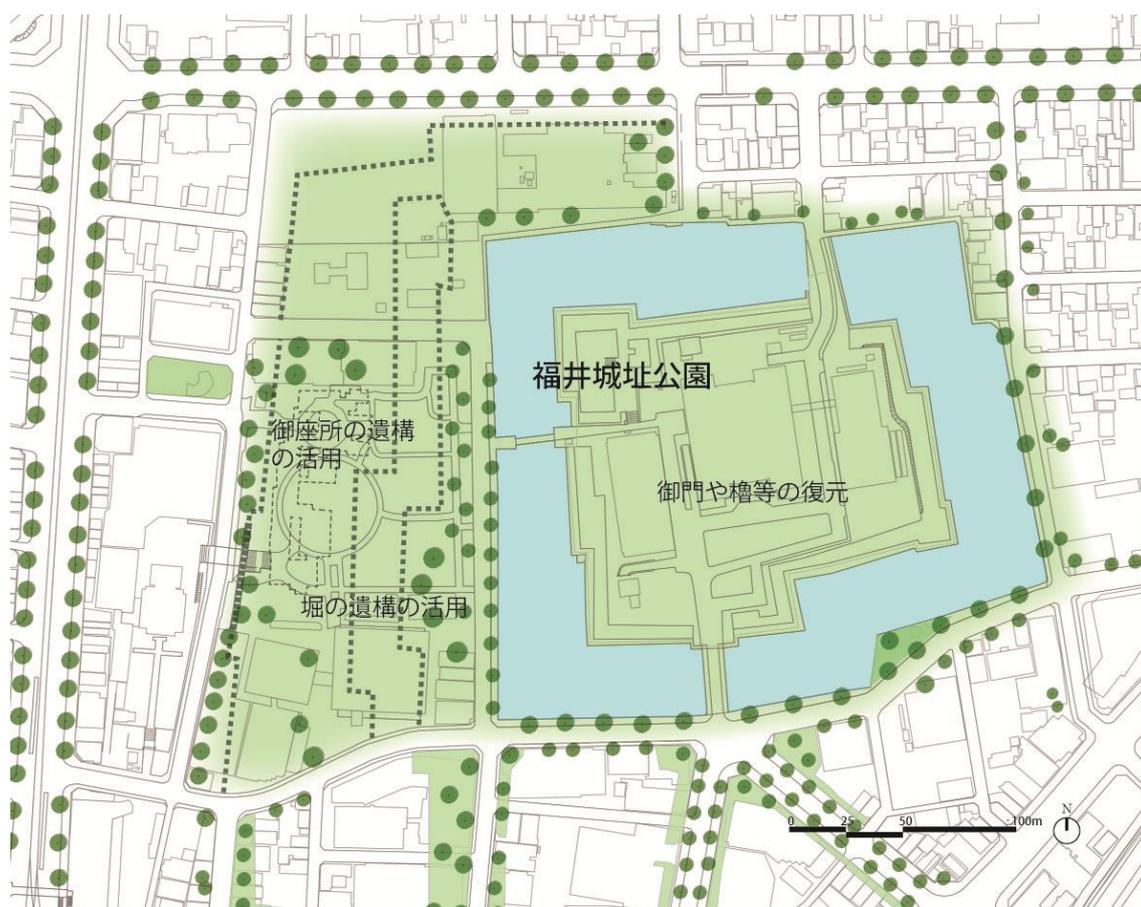
(1) 歴史を象徴し、人が集まる中心となる「福井城址公園」の整備

①城址、中央公園などを一体化した「福井城址公園」の整備

福井城址を、城下町福井を象徴する最も重要な歴史資源として活かし、県都の新たなシンボルとするため、県庁舎、市庁舎を移転・再配置し、福井城址公園として再編する。

城址内、中央公園、県民会館跡地およびその周辺を公園として整備し、中央公園内における石垣等の遺構を活用した広場の整備、城址内における御門や櫓等の復元、文化拠点の形成など、歴史を象徴し、新しい文化を創造し、人が集まる緑豊かな空間を段階的に整備する。

復元にあたっては、県民、市民に寄付を募るなど気運を醸成して順次推進する。



福井城址公園の想定区域

◇県民会館跡地周辺における石垣を活用した公園の先行整備

県民会館跡地周辺を活かし、城址と中央公園の一体性を高める公園整備を行う。

石垣の遺構を公園デザインに活かし、歴史が感じられ、緑の多い開放的な公園を整備する。また、これまで整備してきた天守台跡や御廊下橋との連続性を活かして、その導線上にある山里口御門を復元整備する。[短期]



- ・ 県民会館跡地周辺における石垣を活用した公園整備
- ・ 御廊下橋との連続性を活かした山里口御門の復元
- ・ 堀周辺の歩きやすい環境づくり
- ・ 城址内を散策ルートとして整備



県民会館跡地周辺整備イメージ



山里口御門整備イメージ

[短期の公園整備の方向性]

○公園～御廊下橋～城址のつながりとスムーズな動線を形成

- ・ 土塁の撤去、公園東側および北側市道の路上駐車場撤去と歩車共存道路化

○歴史を偲ぶ堀の遺構を活用

- ・ 石垣を活用した広場整備

○開放的な憩いの空間づくり

- ・ 芝生を基本としたフラットな空間、開放的でありつつ緑豊かな人が集える空間

○野外活動やイベントに利用しやすい空間づくり

- ・ 電気、水道など、必要な設備を充実

○山里口御門の復元

- ・ 天守台跡や御廊下橋との連続性を活かす山里口御門の復元

○散策環境の充実

- ・ 城址内を散策ルートとして整備、堀端の遊歩道空間の拡充

○市民に親しまれる公園を目指した設計

- ・ 公園整備にあたっては、コンペや市民ワークショップを取り入れてデザインを検討

◇「福井城址公園」の整備

県庁舎、市庁舎を移転・再配置し、城址、中央公園およびその周辺エリアに範囲を拡大した「福井城址公園」を整備する。

歴史を偲ぶ空間（御門、櫓、天守閣等の復元、御座所の遺構活用等）、憩いの空間（豊かな緑と開放的で明るい空間整備等）、活動・文化の空間（芸術・文化の拠点の配置等）の3つの機能を持った、歴史を象徴し、人が集まる中心となる公園とする。

整備にあたっては、設計コンペ等により、質の高い優れたデザインを実現する。[長期]

(2) 地域の歴史を実感できるまち並みの形成

県民、市民が誇りを持ち、観光客も楽しむことができる歴史を感じるまちにするため、幕末から明治維新にかけての歴史資産や今も残る近代化遺産を保存・活用し、歴史の厚みのあるまち並みを形成する。

①旧跡を活かした新たな歴史の拠点と回廊の形成

幕末から明治維新に活躍した福井藩士など偉人にまつわる旧跡や、城郭の御門の場所などを、新たな歴史の拠点として整備する。また、これらの歴史資源と養浩館庭園、福井城址、北の庄城址、愛宕坂などをつなぐ回廊を形成する。

◇旧跡、御門周辺を新たな観光ポイントとして整備

異人館跡、横井小楠寄留宅跡、由利公正宅跡等の旧跡を活かし、幕末の歴史が感じられる歴史散策エリアを形成する。[短期～]

継続して、旧跡整備や養浩館庭園等がかつての姿に戻すための拡大整備を行う。また、城郭の御門周辺をまちの歴史を偲ぶポイントとして整備する。[中期～]



異人館イメージ

③地域ごとの歴史を活かした景観形成

福井城址や養浩館庭園、愛宕坂など歴史資源の周辺や、城下町の歴史が建物の用途や形態、商いの形として残る地区を、歴史的界限として位置付け、地域の歴史を活かした景観づくりを行う。

◇各界隈における景観づくり

養浩館庭園周辺、浜町、愛宕坂周辺、呉服町、福井城址周辺等を歴史的界限と位置付け、地域住民とともに景観誘導や無電柱化等を進め、歴史を大切にし、地域の特徴を活かした景観づくりを行う。

地域住民との協議のもと、景観形成のためのルールを策定し、そのルールに基づいて、継続的に景観誘導を行う。[短期～]

[各界隈の景観づくりの方向性]

養浩館庭園周辺

〈名勝養浩館庭園、芝原上水といった歴史資源とその周辺の低層住宅からなるエリア〉

- ・ 緑と水が織りなす住宅街としての良好な環境を受け継ぎ、養浩館からの眺めに配慮した建物の高さとするなど、養浩館庭園と調和した景観を形成
- ・ 城址とつながる観光客の動線にもなるため、敷地の緑化や駐車場を隠すなど、歩きたくなる景観を形成



浜町界限

〈老舗料亭街としての歴史と風情が残るエリア〉

- ・ 足羽山や足羽川の自然景観との調和に配慮し、緑豊かで潤いが感じられる景観を形成
- ・ 高級料亭街として「歴史性」や「和（和風）」の雰囲気が感じられるようデザインを工夫し、心地よい景観を形成
- ・ 回遊性のある魅力的な夜間景観を形成



愛宕坂周辺

〈足羽神社参道であり古くは料亭や茶屋が立ち並んでいたエリア〉

- ・ 坂に面する民家等は、落ち着いた「和（風）」の雰囲気が感じられる外観とするなど、愛宕坂の風情が感じられる景観の形成
- ・ 敷地内の緑化を進めるなど、緑豊かな潤いのある景観を形成



北国街道・寺町界隈

〈福井城下への入り口として、北国街道沿いに発展した寺町。今も神社仏閣が集積し、往時の面影が残るエリア〉

- ・ 寺社地と調和する景観形成を図り、寺町としての個性を伸ばす
- ・ 現在は住宅地であり、住宅地としての良好な居住環境を持ちつつ、街道沿いのまちなみの連続性をつくり、豊かな植栽を施すなど、訪れた人も散策しやすい豊かな景観を形成



呉服町界隈

〈北国街道沿いに創業 100 年を超える老舗商店等が集積するエリア〉

- ・ その特徴を踏まえ、扱う商品による店舗デザインや看板の工夫など、老舗商店らしい店構えを演出
- ・ 店先に緑を配置するなど、歩いて楽しいまち並みを形成



福井城址周辺

〈福井城址は福井の歴史の象徴であり、周辺には庁舎や業務ビル等が並ぶエリア〉

- ・ 福井城址公園と一体となる緑豊かな景観を形成し、訪れた人、働く人、居住者ともに心地よく過ごせる空間を目指す
- ・ 福井のシンボルとなる地区として、軒線の揃ったまち並みの形成、城址の広がりある眺望に配慮したスカイラインの形成など、風格と調和あるまち並みを形成



[景観誘導策についての検討の方向性]

- ・ 景観計画での特定景観計画区域指定、地区計画の策定等
- ・ 景観協定、建築協定等の手法も検討
- ・ 緑化やまちなみ形成のための塀垣による駐車場の修景等への助成など、支援策を検討



駐車場への塀の設置によるまち並みづくりのイメージ

④城下町の名残を旧町名、通りの名称として復活

城下町としての歴史や広がりを実感できるよう、福井城址周辺～旧北国街道沿い等のエリアにおいて、城下町の旧町名を復活する。また、城址周辺の通りを、百間堀通り、堀端通りなど、堀の記憶を映す名称に変更する。

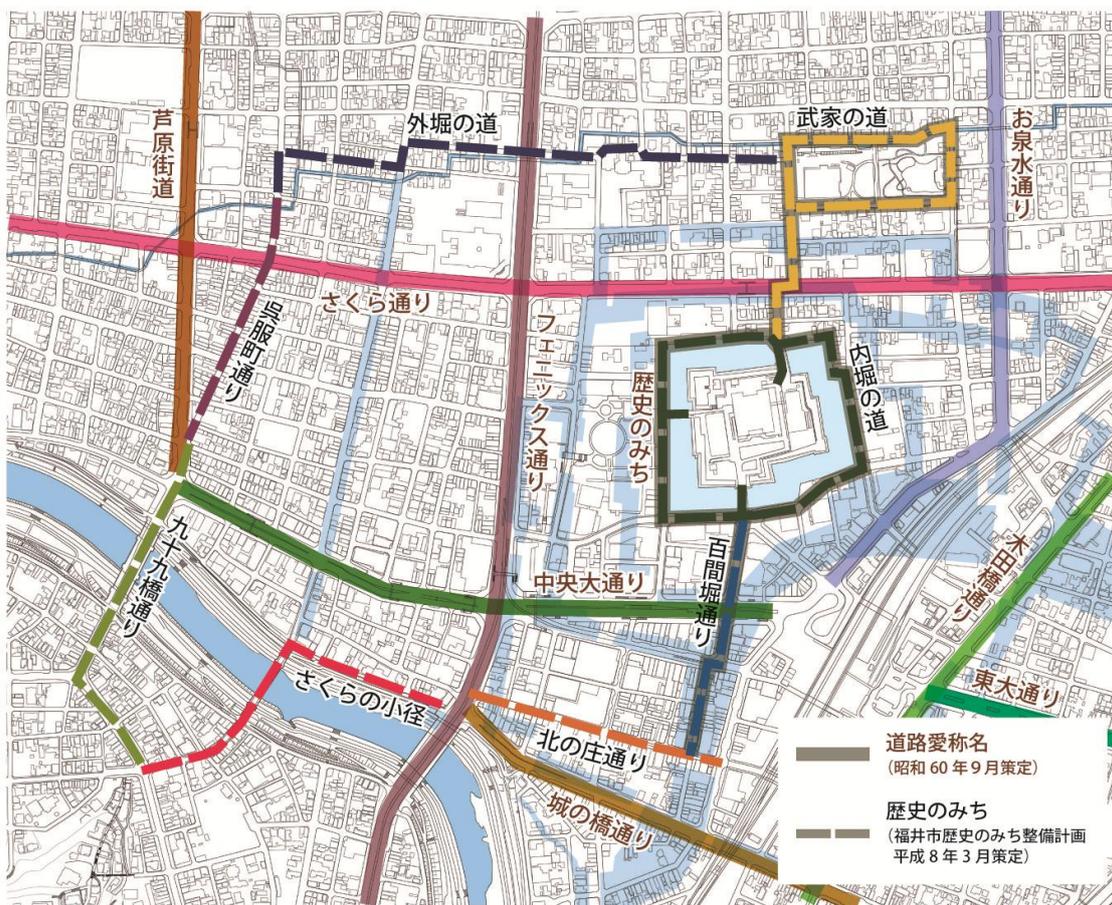
◇城下町の旧町名の復活

歴史を映し、今も地域に残る城下町の旧町名を復活する。

シンポジウムや旧町名の銘板設置等により気運を醸成し、地域住民の合意が図られた地区から、順次、旧町名を復活する。[短期～]

◇城下町の記憶を映す通りの名称への変更

五重の堀が形成されていた城郭の歴史を活かし、城址周辺の通り等の名称を堀の記憶を映す名称に変更する。[短期]



(参考) 現在の通り名称

(3) 文化を育て、発信する県都の実現

歴史と伝統のもとに、新たな文化を創造し続けるため、文化機能が集まる中心地へと再構築する。また、新幹線開業の機をとらえ、県内各地域へと誘う交通結節点として、漆器、眼鏡、打刃物等、県内で培われてきた優れたものづくり文化や豊かな食文化を発信する拠点を整備する。

①福井城址公園周辺への芸術・文化拠点の配置

福井の芸術・文化を育て、県内のものづくり文化を発信する新たな拠点を整備する。子どもから大人までが芸術・文化に触れ合い、創作的な活動を行う機会を創出する。

◇ものづくりデザインの発信、まちづくりへの活用

優れたデザインのものづくり等、県内の産業・文化を発信し、魅力を伝える店舗やギャラリー設置を促進する。[短期]

新駅舎内装等、玄関口となる建物内に漆や和紙などの伝統工芸の活用を促進する。[中期]

◇城址公園周辺への文化拠点の整備

城址公園周辺に新たな芸術・文化を創造する文化の拠点を形成する。石垣、堀などを借景に、歴史遺産である福井城址とも調和するデザイン性の高い文化施設を整備する。[長期]

②福井の「食」を集め、食文化を発信する拠点の配置

旬の農林水産物が買え、福井を代表する料理が楽しめる拠点を整備するなど、福井の「食」を発信する機能を充実する。

◇「食の拠点」の整備

福井駅周辺に、地場産の農林水産品を買え、おろしそばや旬の海産物等を味わえる「食の拠点」の整備を促進する。[短期]

新駅舎や高架下等、新たな場所を活用した拠点の整備を促進する。[中期]

③新たな活動を生み出す若者等のための空間の形成

駐車場など低未利用地や、空き店舗、空きビル等を活用して、文化・スポーツ、まちづくり活動、新たなビジネス等が展開できる、若者等のための空間を形成する。

◇若者等が活動するための場の創出

西口再開発ビルの屋根付き広場を、若者等多くの人々が利用しやすい施設となるよう、市民等と協働で運営体制を構築する。高架下を、スポーツや文化活動、イベント等、若者等の活動に利用しやすい広場として利用する。[短期～]

また、駅周辺の空き店舗、空きビル等、都市のストックを有効活用し、シェアオフィス、アトリエやアートギャラリー、大学の研究室、まちづくり活動など、若い世代が新しい活動を始めするための利活用を促進する。[短期]

Ⅱ. 美しく持続可能な都市

(1) 緑豊かな風格ある都市への再編

新幹線開業や建物の更新時期を捉え、公共施設の移転・再配置を含めた街区の再構築、連鎖的な再開発の誘導により、民間投資を促進する。緑の不足や景観の不統一、回遊性向上などの課題を解決し、県都の顔にふさわしく賑わいのある駅周辺と、福井城址からつながる豊かな緑がある整ったまち並みを形成する。

① 県都の顔となる玄関口の再整備

人が集まる、緑と賑わいのある駅前広場を整備する。また、駅と福井城址、駅の東西を結ぶ歩行者の動線を整備する。

◇ 駅西口広場の整備

西口再開発ビル、屋根付き広場、交通結節機能が一体となった、にぎわいと交流を生む回遊性の高い空間と、まちなかにつながる明確な動線からなる駅西口広場を整備する。福井の風景や歴史を想起させる福井の玄関口にふさわしいデザインを実現する。[短期]



駅西口広場の完成イメージ

◇駅と城址をつなぐ軸の整備

駅と城址がつながる重要な動線として、道路空間の再配分により歩行空間を拡充するなど、福井城址公園の整備とあわせ、緑陰やにぎわいを楽しむことができる空間を整備する。

[短期]

[駅・城址をつなぐ軸（県庁線）の整備の方向性]

- ・ 駅と城址を緑でつなぐ、緑豊かな歩行者空間の形成
- ・ 木陰ができる、四季折々の表情のある植栽
- ・ 無散水融雪の整備等、冬でも歩きやすい通りの形成
- ・ 周辺の店舗がオープンカフェ等に利用できるような空間とし、通りの賑わいを創出



県庁線の現況



整備イメージ

②都市の骨格となる「緑のシンボル軸」の形成

戦災復興によりつくられた、都市の骨格となる東西・南北の大通りを緑豊かなシンボル軸として整備する。また、車優先の道路空間から歩行者中心の空間へと利用転換する。

◇街路樹整備による緑豊かな通りの形成

中央大通り、東大通り、フェニックス通りの緑化整備により、緑豊かで四季を感じられる、歩きやすい通りをつくる。[短期]

[中央大通りの緑化整備の方向性]

- ・西口駅前広場の整備後に、両側のバスレーン部分を植樹スペースとして整備。中央分離帯も、現在のクスノキを活かしながら可能な部分はさらに植樹し、3列植樹を形成
- ・枝振りが良くボリュームのある美しい樹形の樹を植えることにより、風格のある緑豊かな県都にふさわしい通りを形成
- ・併せて、美しい景観と木陰を提供することにより、心地よく歩ける空間を創出



中央大通りの現況



中央大通りの緑化整備イメージ

[東大通りの緑化整備の方向性]

- ・中央分離帯のケヤキを活かす。歩道部分には電線共同溝が埋設され、植樹が可能な個所が限られているため、駐車帯も活用して植樹スペースを整備し、3列植樹を形成
- ・枝振りが良くボリュームのある美しい樹形の樹を植えることにより、風格のある緑豊かな県都にふさわしい通りを形成
- ・美しい景観と木陰を提供するとともに、歩道舗装を高質化し無散水融雪を設置することにより、心地よく歩ける空間を創出



東大通りの現況



東大通りの緑化整備イメージ

[フェニックス通りの緑化整備の方向性]

- ・足羽川から北側については、既存のケヤキ並木を延長
- ・足羽川から南側についても、北側と同様の風格ある緑豊かな道路空間を形成
- ・併せて電線を地中化し、心地よく歩くことができる、整った景観の通りを形成



フェニックス通りのケヤキ並木

◇緑と調和した道路景観の形成

シンボル軸は都市景観を印象づける特に重要な公共施設であることから、通り毎に異なる街灯や、設備毎にデザインが違うバス停、電停などの状況を改善し、統一感のあるデザイン（周囲の緑や景観になじむ落ち着いた色彩、シンプルなデザイン）を実現する。

そのため、デザインの詳細な基準の明示と、県、市、専門家等によるデザインを調整するための体制の整備により、計画の段階からデザインの方向性を調整する。また、これらの基準等に基づいて、継続的に景観誘導を行う。[短期～]

[デザインの方向性]

- ・街路樹、舗装デザイン、街灯、信号機、バス停、電停等の道路および道路付属施設、道路上の設置物全てを対象
- ・緑と調和し、周囲の景観になじむ落ち着いた色彩、シンプルな意匠等

③ 駅・城址周辺の街区の再構築、景観形成

新たな県都のシンボルとなる城址公園から広がる地区として重要な駅・城址周辺を、公共施設を含む建物の更新時期を捉え、経済、行政機能の中心地として再構築する。また、緑の空間や堀を想起させる水辺、用水など、城址と一体となった景観が広がるまち並みを実現する。

◇建物の更新時期を捉えた街区の再構築

業務機能が集積している地区等において、まちの実情に合わせた中低層の再開発、共同建替えによる建物更新の促進、低未利用地（空地や駐車場等）の集約化によるまとまった土地の創出と施設の再配置など、多様な手法を用い、地権者や民間事業者の協力のもと街区の再構築を図る。

そのため、街区の再構築手法について検討する。[短期]

また、中長期にわたり、街区の再構築を誘導する。[中期～]

◇城址と一体となるまち並み景観の形成

建物更新の際に、建物や敷地内のデザインを適切に誘導し、公園と一体となった美しく風格のあるまち並みを実現する。

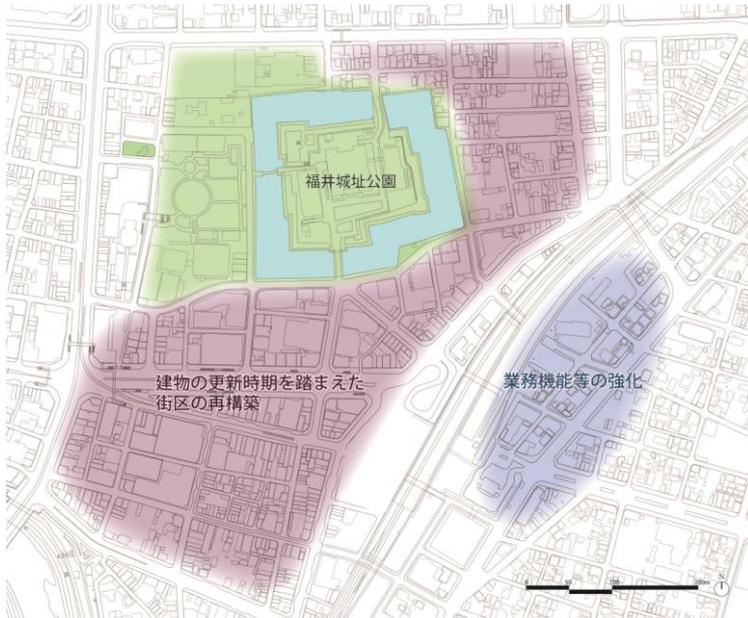
そのため、地権者や事業者とともに景観づくりの検討を行い、地区計画、景観計画等により景観誘導を行う。[短期～]

[景観誘導の方向性]

- ・建物のセットバックと敷地内の緑化により、福井城址公園から商店街へと豊かな緑が広がるまち並みを形成
- ・福井のシンボルとなる地区として、軒線の揃ったまち並みの形成、城址の広がりある眺望に配慮した建物の高さへの誘導など、風格と調和あるまち並みを形成
- ・お堀に面した低層部を開放的にしつらえる、セットバックして歩行空間を確保するなど、心地よく歩くことができるまち並みを形成
- ・堀のあった部分への水辺の誘導、笏谷石を意識した素材や色の活用等、歴史を感じる空間づくりを推進

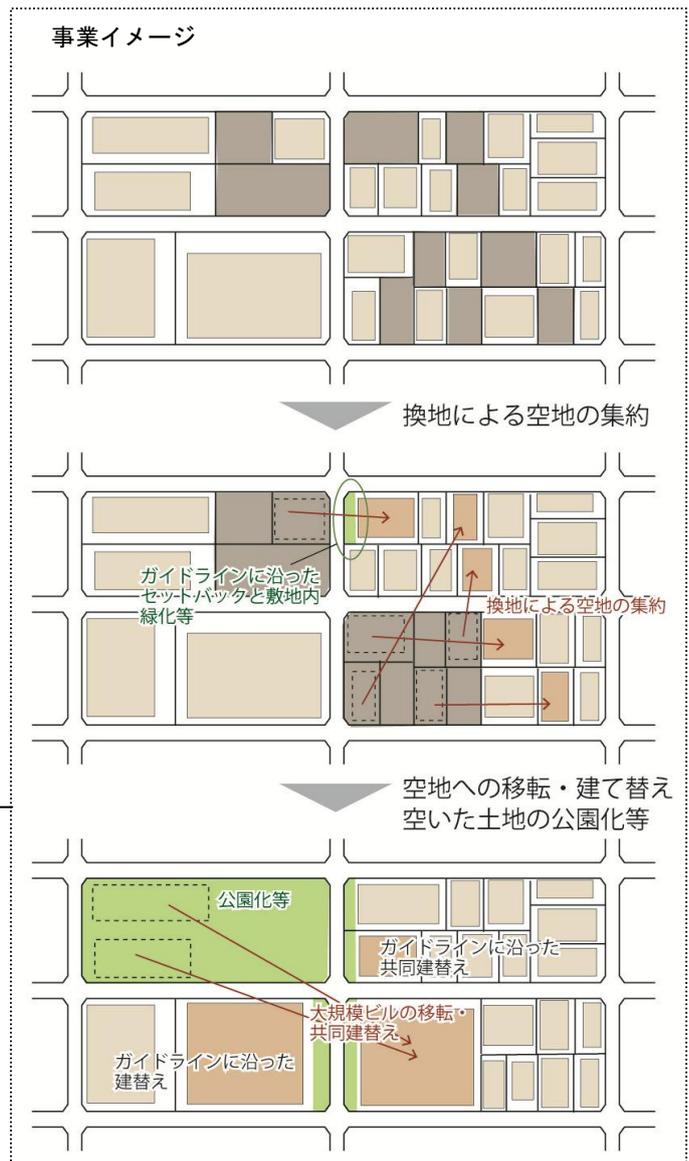
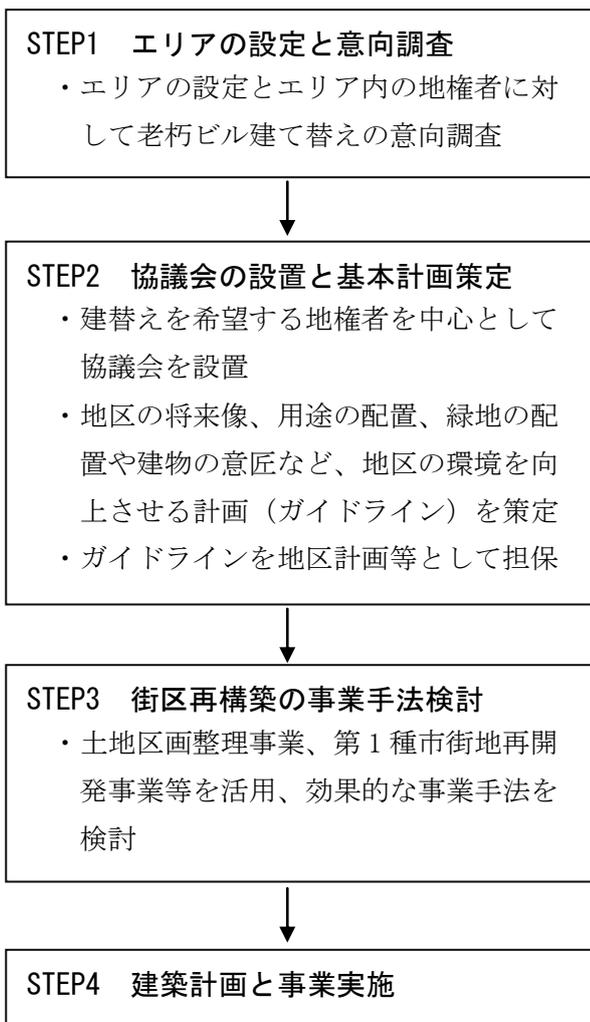
◇駅東口へ業務機能等の強化

新幹線駅が建設される駅東口において、再開発事業や駅西口との連続性を活かし、民間企業の集積など業務機能等を高める。また、郊外観光地へのバス等、県外客等のための2次交通機能を向上する。[中期～]



街区の再構築、県内企業の本社機能の集積と促進と強化を検討する地区

街区再構築の進め方イメージ



④まちなかの魅力を高める新たな土地利用

まちなかに広がり、増加しつつある低未利用地（空地や駐車場等）を、緑の広場としての利用や、将来の活用策を探るための暫定的な利活用などにより、県民、市民のための、まちなかの魅力を高める公共性の高い空間に転換する。

◇低未利用地の利用転換

低未利用地を、県民、市民の活動や賑わいづくりの場となり、地域の景観の向上や、まちなかの緑の創出に寄与する広場等、公共性の高い空間へと転換する。活用にあたっては、地域住民とともに利用方法や維持管理を担う仕組みの構築を検討する。

城址周辺等において、行政が保有している土地や、利用できる土地を確保し、将来の更なる土地利用転換も視野に、暫定的に有効活用を図る。[短期]

低未利用地の広場化等の社会実験を行い、土地利用転換を波及・促進する。[中期～]

[低未利用地の有効活用の方向性]

- ・土地所有者の協力のもと、行政や民間団体による公益的な土地利用へと転換する仕組みを構築
- ・県民、市民の活動の場となる緑の広場等として活用。広場の維持管理を地元で進める地域住民主体の維持管理の仕組みを構築
- ・周辺環境の変化に合わせた賑わいづくりに貢献する利用（カフェやレストラン等の整備）を促進
- ・コンテナ、ユニットハウス等の簡易な建築物の設置等によって、利活用の社会実験を実施。結果を踏まえて地域に求められる施設の本格整備へと展開



低未利用地の活用イメージ

(2) 人や環境に優しい交通とコンパクトな都市構造の実現

公共交通の幹線軸を強化し、拠点への都市機能の集積と沿線への居住誘導により、持続可能な都市構造を実現する。

自動車の交通量減少や小型化、超高齢社会に対応した交通システムへと転換し、環境負荷の低い都市を実現する。

① 駅を中心とする交通機能の強化、都市機能集積の活用

福井駅、田原町駅における鉄道、バス等、交通機能結節を強化する。

田原町駅周辺については、大学やフェニックスプラザ、図書館、体育館等の集積や公共交通結節機能を活かし、集い・交流のできる拠点としての魅力を向上する。

◇福井駅の交通結節機能の強化

東西広場の整備による鉄道、バス等の交通結節機能を強化し、利便性を向上する。また一乗谷朝倉氏遺跡、大安禅寺など郊外観光地等へのアクセス向上や、えちぜん鉄道の高架化による駅東西市街地の一体化と交通の円滑化を図る。[短期]

◇田原町駅周辺の拠点性の向上

福井鉄道、えちぜん鉄道の相互乗入を実現し、駅舎を整備する。[短期]

駅前広場や、文教・交流施設の更新・再配置等により、田原町駅周辺の交流拠点としての魅力を向上する。[中期～]

②都市構造を形づくる東西・南北公共交通の強化、定住誘導

福井駅を中心とした基幹的な公共交通体系と、それを補完する細やかで利用しやすい公共交通網を整備し、子育て世代から高齢者まで、多様な世代の沿線への居住を誘導する。

◇公共交通体系の再構築

まちなかへの移動利便性を高めるため、福井駅から伸びる放射状の公共交通幹線軸の充実を図る。また、高頻度できめ細かなバスの運行等、幹線軸を補完する交通網を整備・充実し、市民の足としての利便性を向上する。[中期]

幹線軸の強化や、福井駅から東西への新たな路線を整備する。[長期]

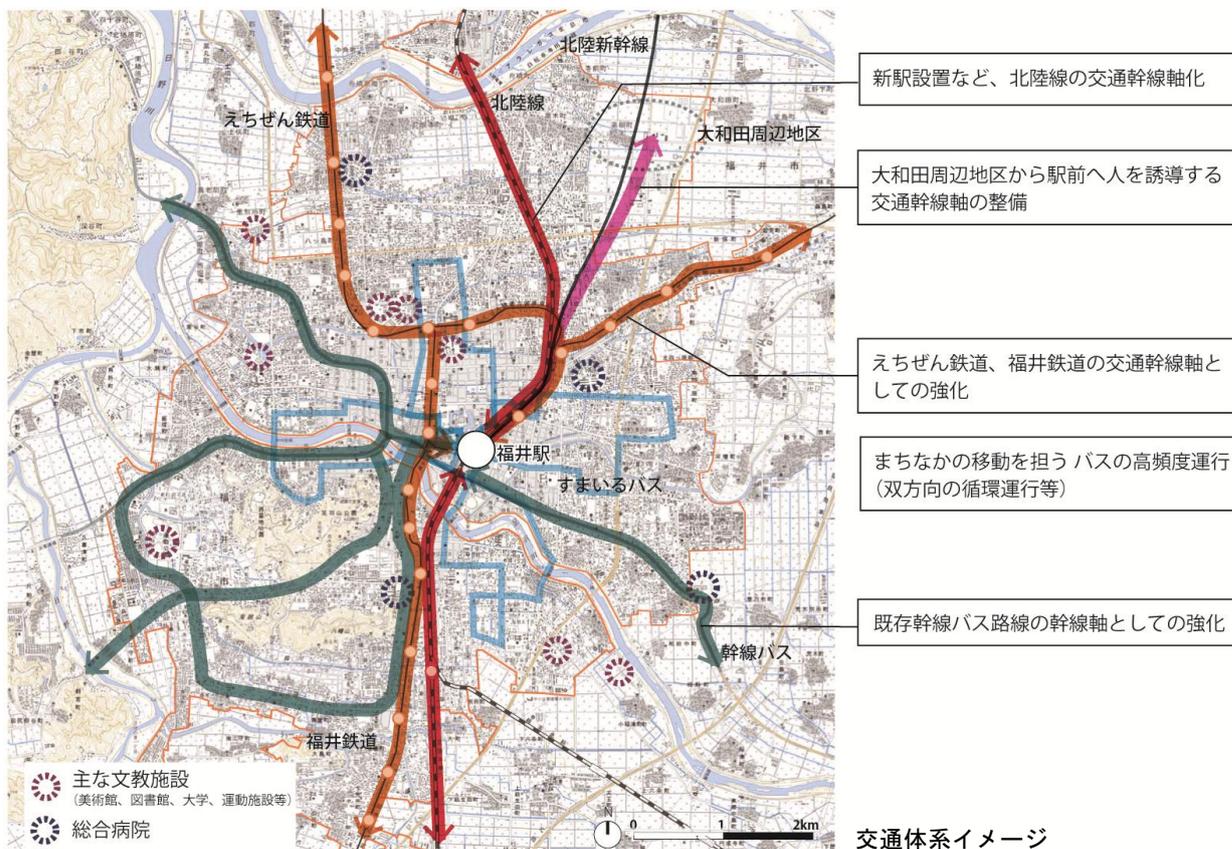
[新たな公共交通体系整備の方向性]

○公共交通幹線軸の強化・新規整備

- ・北陸線の新駅設置など幹線軸としての機能強化
- ・区画整理が進み人口が増加している大和田周辺地区と駅前を結ぶ幹線軸の整備
- ・既存幹線軸の強化（バスの高頻度化や定時性の確保、鉄道の高頻度化等）

○幹線軸を補完する交通網の高密度化

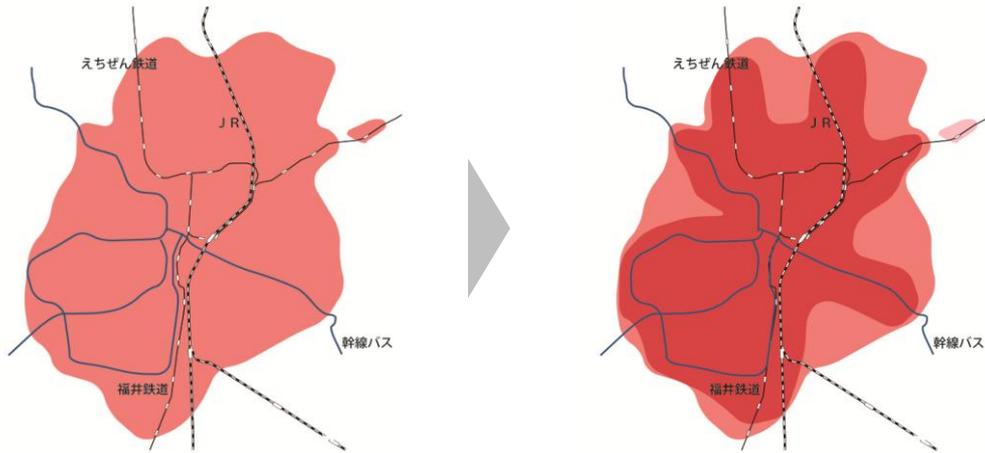
- ・まちなかの移動を担うバスの高頻度運行（双方向の循環運行等）
- ・幹線軸の主要な駅と周辺の住宅地を結ぶ補完交通の整備・充実
- ・福井駅東西の新たな路線整備等、交通網の高密度化



交通体系イメージ

◇公共交通網周辺の居住誘導

新駅の設置やバスの高頻度化等を進め、公共交通幹線軸を強化するとともに、その沿線において居住や都市機能の立地を誘導し、コンパクトな都市形態を実現する。[中期～]
インセンティブ付与によるまちなか居住推進を強化する。[短期]



現状

- ・ 郊外へと薄く広がった市街地
- ・ 公共交通の利便性が高い地域は限定されており、移動は自動車依存

将来

- ・ 交通利便性の高い公共交通幹線軸沿道へ都市機能の立地を誘導、幹線となる公共交通の利便性向上
- ・ 郊外の広がり抑え、低密度化
- ・ 生活利便性の高いまちなかと、自動車依存だが比較的ゆったりした郊外といった性格分け

コンパクトな都市形態への誘導イメージ

③歩きやすく雨・雪に強い歩行者空間の形成

子どもや高齢者、観光客、外国人等、多様な歩行者が歩きやすく、雨・雪に強い歩行環境を整備する。

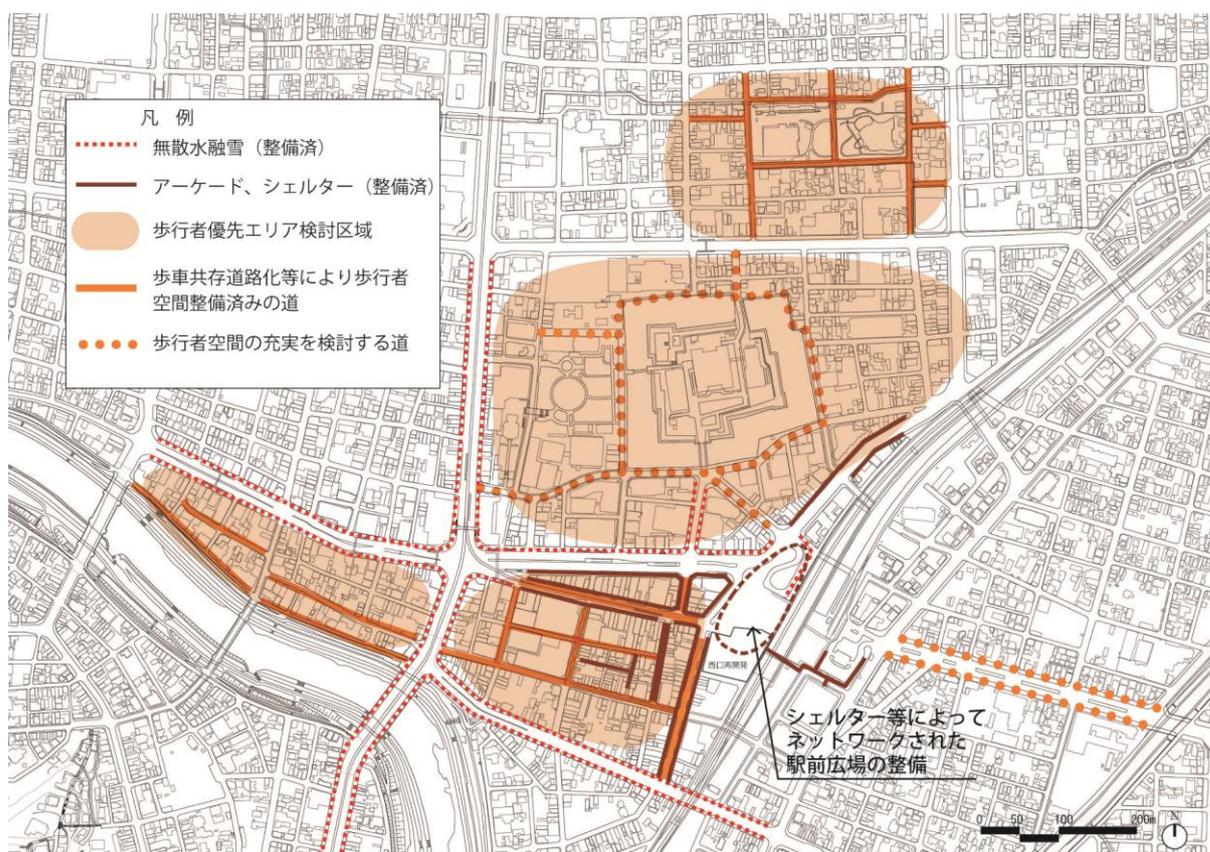
◇歩きやすい歩行者空間の形成

駅・城址をつなぐ道路や城址周りの整備、雪や雨に濡れずに乗り換えのできる駅前広場の整備等を進める。[短期]

アーケードや無散水融雪整備等による雪に強い環境づくり、サインの充実、道路空間の再配分による歩道整備や歩行者優先エリアの整備など、駅を中心とした歩きやすく回遊しやすい環境整備を継続する。[中期]

[雨や雪に強い歩行環境整備の方向性]

- ・ シェルターやアーケードによる駅前広場での乗り換え環境の充実や、駅と商店街を結ぶネットワークの形成
- ・ 主要な歩行者動線となる道路における無散水融雪の整備



歩行者空間形成の考え方

④まちなかの移動に便利な交通ネットワークの形成

主婦や高齢者、観光客等の短距離移動の手段として、自転車や超小型EV等を利用した交通システムを整備する。

◇自転車を利用したくなる環境整備

交通結節点、公共施設、観光施設等への駐輪場配置や、短時間利用を想定したサイクルシェアリング導入等により、近距離移動手段の一つとしての自転車利用環境を整備する。

[短期]

将来的に、道路空間再配分等により自転車専用レーンを設置するなど、自動車交通と共存する自転車ネットワークを形成する。[中期～]

[サイクルシェアリング導入の方向性]

- ・ 駅、観光施設、公共施設、商業施設等利用しやすい場所へのポートの設置
- ・ 利用はポート間の移動を基本。短距離、短時間利用を推奨するシステムとすることにより、自転車の効率的な利用
- ・ 優れたデザインの自転車を利用
- ・ 公共交通や商店街の利用カード等と共用できるシステム
- ・ 観光地の入館料割引など、観光客へのインセンティブが働くシステム

◇まちなかの短距離移動を担う超小型EVの利用環境整備

社会実験も実施しながら、身近な買い物や観光等、まちなかでの近距離移動の新たな手段として、自動車から超小型EVへの利用転換を促す環境を整備する。[中期]

[超小型EVの走行空間、利用環境整備の方向性]

- ・ 車道部分の縮小による専用レーンの整備
- ・ 駐車場無料化、充電インフラの整備等のインセンティブ導入
- ・ シェアリングシステムや、観光客の移動手段として導入

[導入に向けた社会実験実施の方向性]

- ・ 高齢者や観光客を対象に、超小型EVシェアリングを実施
- ・ 専用レーン設置、大型車通行禁止、駐車禁止等の設定による導入実験を実施

Ⅲ. 自然を守り、緑や水と共生するまち

(1) シンボルとしての足羽山、足羽川と緑がつながる空間の形成

足羽山、足羽川を、四季が感じられる都市内の大切な自然として守り続けるため、市民全体で保全・活用する。また、民間施設や道路を含めた緑化を推進し、足羽山、足羽川から緑が広くつながる空間を実現する。

①自然を楽しみ、学ぶ場としての活用と緑・生態系の保全

足羽山、足羽川を、まちなかに隣接する里山や水辺として、市民や子ども達の学びの場として活用する。より親しむことができる環境や仕掛けをつくることにより、足羽山・足羽川の貴重な緑や生態系、四季を感じられる自然の風景を、市民全体で使いながら守る。

◇四季を通じた花と緑の風景の形成

足羽山におけるアジサイ、モミジ等の植樹や常緑樹の間伐、足羽川における草花の植栽、景観舗装等により、四季を通じて花と緑が楽しめる自然環境に整備する。[短期]

また、足羽川の桜堤は「桜の名所百選」に選ばれた福井市のシンボルであり、次世代に残すための適切な管理により、保全・再生を行う。[中期～]

◇自然学習の場としての足羽山の環境整備

野外展示等の自然に親しむ展示方法を導入するなど、自然史博物館を中心に、ギフチョウなど希少生物が生息する足羽山を、学びの拠点として活用する。また、昆虫や植物、野鳥等を楽しみ、小中学校、幼稚園の環境教育や健康づくりのための場所として利用できる散策環境等を整備する。[短期～]



自然学習の場としての利用促進



散策環境のイメージ

◇里山保全の体制づくり

足羽山を、将来にわたり市民全体で保全管理するため、土地所有者と利用者の理解のもと、「市民の里山」として活用・管理できる仕組みを構築する。[中期～]

市民による間伐や美化活動等、そのきっかけとなる活動を活発化させる。[短期]

[「市民の里山」の仕組みの方向性]

- ・市が、里山保全の初期整備をしたうえで、市民団体等が継続的な保全活動を実施
- ・市が、市民等から寄付金を募りファンドを造成し、市民による保全活動への支援を実施

②足羽山・足羽川の眺望を守り、緑をつなぐ景観づくり

足羽山・足羽川の眺望を守り、まちなかに緑が広がる都市空間を実現する。

◇足羽山、足羽川の眺望景観の保全と創出

足羽山、足羽川が福井のシンボルとして映えるよう、まちの中の主要な視点場から足羽山が望める眺望景観を保全する。また、足羽山からまちを眺めた際に、緑がまちにつながる実感を持てる眺望景観を創出する。

そのため、地域住民との協議のもと、景観形成のためのルールを策定し、そのルールに基づいて、継続的に景観誘導を行う。[短期～]

[足羽山を眺める眺望景観保全の方向性]

- ・ 主要な視点場から足羽川の桜並木、足羽山が一体となって見える景観を形成
- ・ 桜並木の高さを超えないような建物や屋外広告物の高さの誘導を検討



桜並木の高さを超えず、足羽山への眺望を守る高さに誘導

[足羽山から眺める良好な眺望景観創出の方向性]

- ・ 足羽山の展望台から、まとまりのある市街地の眺望景観を創出するために、建物の色や屋根のしつらえを誘導
- ・ 足羽山からの眺望に配慮し、個々の建物の屋根や外壁の周囲と調和した色彩への誘導、高い建物や屋上から突出する屋外広告物の色や大きさを抑える誘導を検討
- ・ 足羽山の緑が市街地の中につながっていく緑の眺望景観を創出



愛宕坂上の展望台から市街地を望む



民間敷地の緑化により、足羽山から市街地へ滲み出す緑

(2) 文化と活動の空間としての足羽山、足羽川の再生

足羽山、足羽川を、駅・城址周辺から気軽に行くことができ、足を伸ばしたくなる場とするため、愛宕坂周辺、浜町界隈の歴史・文化や、足羽川の水辺空間を活かして再生する。

①「文化の杜」としての足羽山の再生

足羽神社の参道として栄え、文化人が集まった歴史を踏まえ、アトリエや工房を誘致するなど、創作的な活動ができる文化空間を形成する。

◇「里山アート・ミュージアム」の形成

間伐材を利用した里山造形展や、森を舞台とした環境アートイベントなど、小中高生等の創作活動の場として利活用する。また、愛宕坂へのアトリエや工房の誘致をはじめとした施設の再整備等により、足羽山を里山アート・ミュージアムとして再生する。[中期～]

②水辺と桜堤を活かした足羽川における活動空間の形成

水辺を活かして、親子で遊び、楽しむことができる環境を整備する。

◇親水空間の整備

船着場の浚渫や散策空間の再整備等により、足羽川をフィールドとして、ボートや釣り、ウォーキング、ジョギング、サイクリングなどを楽しむことができる水辺環境を整備する。
[短期]

また、足羽川沿いの東公園に親水空間を整備する。[長期]

③食と文化を楽しむ空間としての足羽川周辺の魅力向上

足羽川の水辺と浜町等の足羽川周辺を活かし、文化的な雰囲気の高い界隈を形成する。

◇食文化を活かしたおもてなし空間の形成

水辺や桜を眺める川床の設置や浜町周辺の景観整備など、浜町の食文化や歴史を活かしたおもてなし空間を整備する。[短期]

◇歴史を活かした拠点整備

異人館や時鐘楼、三秀園等、かつてあった歴史的建造物を活かし、建造物や庭園が偲ばれる文化空間を整備する。文化空間の形成に関する構想を策定し、順次進める。[短期～]



足羽川の活動空間としての活用イメージ

4. 推進方策

意識を醸成し、協働する仕組みづくり

県民・市民・大学やまちづくり団体等とともにビジョンを共有し、公共空間をつくりあげる機会や場を創出する。

ワークショップや社会実験、歴史的資源の復元に向けた寄付募集などを実施する。

①県民、市民とともに公共空間をつくりあげる仕掛けづくり

公園や道路景観等の整備段階では、ワークショップや社会実験等により、県民、市民とともに考えながら公共空間を整備する。これにより、まちづくりに対する県民、市民の意識を高め、より愛着を持って利用される公共空間整備を実現する。

②城址の復元等に対する寄付の募集

城址などの歴史的シンボルの復元等に対する寄付募集等を行い、県民、市民、企業や団体の参加と協力のもとで整備を進める。

③まちづくりの将来像や情報の共有

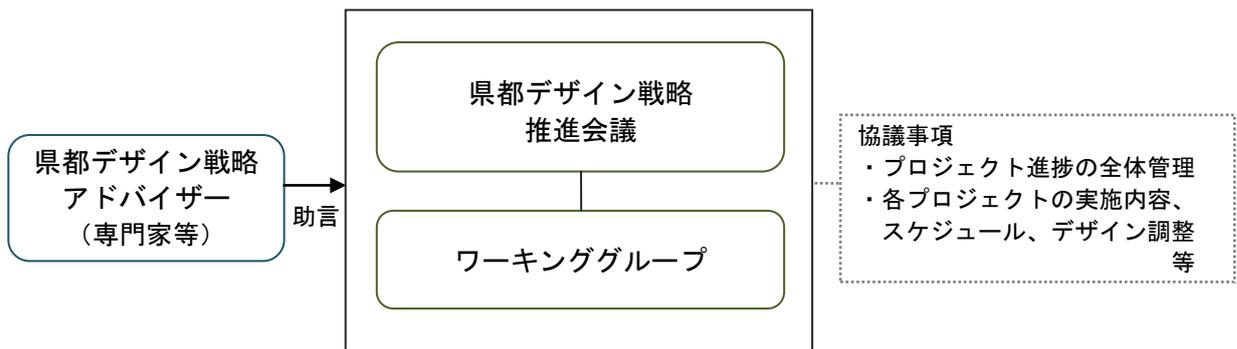
県民、市民に、県都におけるプロジェクトの進捗状況やまちづくりの情報を発信する場や仕組みをつくる。さらに、大学、まちづくり団体、企業、市民等がまちづくりの情報を共有、提案をしながら、将来像を共に考えるためのプラットフォームとなる拠点を設置し、学生を始めとしたまちづくりに関する活動の場として活用する。

デザインマネジメントの徹底

将来にわたって質の高いデザインを担保する県、市、専門家によるマネジメント体制を整備する。

① 県都デザイン戦略の推進体制

県、市による県都デザイン戦略推進会議を設置し、プロジェクトの実施内容やスケジュールについて調整しながら一体的に推進する。



県都デザイン戦略の推進体制

② 民間・公共の空間デザインに対するマネジメント体制

民間の敷地・建物や公共空間を整備、再編するこれからの事業の実施にあたって、将来にわたり、質が高く一貫性のある都市デザイン等を担保するため、専門家等による第三者機関を設置するなど、各事業の設計段階からデザイン調整を行う体制を整備する。

県内外からの英知を集め、空間デザインに活用

プロジェクトの実施に当たっては、デザインコンペ等を実施し、空間デザインに県内外の英知を集結する。

○プロジェクトの実施にあたってのデザインコンペ

公共建築デザインや公園等の公共空間デザインについてコンペを実施し、優れた空間デザインを実現する。福井のPRによる観光客増加といった副次的効果や、審査に市民を巻き込むことによる意識醸成等の効果を発揮するよう、実施方法を工夫する。

策定経緯

①県都デザイン懇話会

長期的な視点に立った今後のまちづくりを進めるための方策について協議し、「県都デザイン戦略」を策定するため、都市デザインの専門家やまちづくり活動の実践者等による「県都デザイン懇話会」を設置

○県都デザイン懇話会 委員名簿

(順不同、敬称略)

氏 名	職 名
西村 幸夫	東京大学副学長
国吉 直行	横浜市立大学特別契約教授
小浦 久子	大阪大学大学院准教授
五百旗頭 薫	東京大学社会科学研究所准教授
勝木 健俊	(社)福井県観光連盟会長
八木 誠一郎	福井経済同友会 代表幹事
開発 毅	こみちこまち浜町推進会議代表
下川 勇	福井工業大学准教授
吉田 健	元福井県文書館嘱託
竹内 幸子	福井まちと暮らしの研究会代表

○県都デザイン懇話会の開催経過

平成24年	2月 3日 (金)	第1回県都デザイン懇話会
	7月 6日 (金)	第2回県都デザイン懇話会
	10月22日 (月)	第3回県都デザイン懇話会
	11月26日 (月)	第4回県都デザイン懇話会
平成25年	1月28日 (月)	第5回県都デザイン懇話会

②県都デザインフォーラム

次世代に引き継ぐにふさわしい県都の将来像について、県民・市民と一緒に考えるフォーラムを2回開催

○第1回県都デザインフォーラム

日時：平成23年10月18日（火） 13:00～16:00

場所：ホテルフジタ福井 3階 天山の間

プログラム

- 基調講演 「福井の戦後復興と今後のまちづくり」
西村 幸夫氏（東京大学副学長）
- 特別講演 「由布院40年のまちづくり」
桑野 和泉氏（由布院温泉観光協会会長）
- 意見交換 「住民主役のまちづくり」
- コーディネーター 川上 洋司氏（福井大学大学院工学研究科教授）
- パネラー 西村 幸夫氏（東京大学副学長）
桑野 和泉氏（由布院温泉観光協会会長）
開発 毅氏（こみちこまち浜町推進会議代表）
下川 勇氏（福井工業大学建築学科准教授）

○第2回県都デザインフォーラム

日時：平成24年11月26日（月） 13:00～15:00

場所：ホテルフジタ福井 3階 天山の間

プログラム

- 基調講演 「県都デザイン戦略ー今こそ必要な県都の再設計ー」
西村 幸夫氏（東京大学副学長）
- 意見交換 「県都デザイン戦略とこれからの福井のまちづくり」
- コーディネーター 下川 勇氏（福井工業大学建築学科准教授）
- パネラー 西村 幸夫氏（東京大学副学長）
後藤 正邦氏（(社)福井青年会議所専務理事）
清水 嗣能氏（福井県旅館ホテル生活衛生同業組合副理事長）
高木 紀栄氏（福井アーバンデザイン研究会会長）
西尾 佳敬氏（ふくい片町青年会 会長）
羽場 千尋氏（アーキズム建築設計事務所取締役）
村上 智子氏（金沢大学大学院人間社会環境研究科）

③意見募集等

県民・市民の提案・意見を聴く「県都デザインワークショップ」およびアンケート調査を実施

○県都デザイン戦略ワークショップ

「城址および中央公園のあり方」、「県都の玄関口としての駅周辺のデザイン」、「足羽山・足羽川」の活用の3つのテーマについて、「県都の将来的な姿」と、そのために「自分たちに何ができるか」という両面から提案を出し合うワークショップを実施

《 第1回目 》

日 時 : 平成24年9月1日(土) 13:30~16:30
場 所 : 福井市地域交流プラザ(アオッサ) 6階 研修室601
参加者 : 34名

《 第2回目 》

日 時 : 平成24年9月8日(土) 13:30~16:30
場 所 : 福井県国際交流会館 2階 第1・2会議室
参加者 : 31名

○県民アンケート調査

実施時期 平成24年9月~平成24年10月
調査対象 県内在住の成人男女 4,000人
(うち福井市民2,000人 福井市民以外2,000人)
回答者数 2,153人(回答率53.8%)

○パブリックコメントの募集

2月上旬実施